

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	伊丹市立児童発達支援センター			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 25日		～	2026年 1月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	109名	(回答者数)	81名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数)	23名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者同伴の通所施設により、親子で様々なあそびや生活を体験することができ、またこどもの姿を互いに伝え合い、成長を共に喜び合うことができる。	・ご家庭でも楽しめそうなあそびを企画し、保護者にも誘いかけてこどもと一緒に楽しめる時間を作っている。 ・日々のこどもの様子や変化を保護者と伝え合い、共に成長した姿を認め喜び合う時間を大切にしている。また心配事に寄り添いながら支援方法について一緒に考えている。	・親子で様々な経験ができて楽しい時間となるよう、保育の内容を工夫していく。 ・就園、就学への不安な思いに寄り添い、次の進路先の職員へ保護者自身でも思いを伝えていく為のサポートをしている。
2	様々な職種の職員と話し合うことができるので、こどもの姿を多角的にとらえることができ、また一緒に支援方法を考えることもできる。	会議では、それぞれが専門的視点で意見交換を行い、こどもの姿を共有することができる。また随時、情報共有や支援方法についても一緒に考えることができ、一人ひとりに合わせた支援に繋がられるよう努めている。	センター全体での会議や研修を重ね、職員で連携し、支援の質の向上に努める。
3	・就学、就園の際には各小学校や就学前施設への引継ぎや保育所等訪問支援事業のご利用により、こどもたちが新しい環境でも安心して過ごせるよう努めている。 ・センター内には相談支援事業所や様々な通所形態のクラスがあり、見学の調整がしやすく、こどもにとって必要な支援の場を考える機会を保護者に提供しやすい。	・保護者の意向を確認している。また就園、就学後、保育所等訪問支援事業を契約された方にご連絡をして、保護者のニーズに合わせて訪問している。 ・保護者へ情報提供の1つとして見学日を設けている。見学希望があればすぐに対応している。	・修了後も、こどもたちが安心して過ごせるよう、地域の施設の先生方との連携も大切にする。 ・引き続き、保護者の想いを受け止めながら次の移行先と一緒に考えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の方の行事への参加について、保護者に限らず、利用者のきょうだいや祖父母等、参加対象者を広げたが、センター周辺に住む方々へは誘いかけができていない。	施設の広さもあり、地域住民の方をどこまでお誘いをするのか、判断が難しい。	地域のおそび場で過ごす機会を持ち、地域の方との交流につなげていく等、今後も検討していく。
2	行事の様子等、具体的な場面をホームページに掲載できていない。	個人情報意識して進まなかった。	環境を映した写真を掲載する等、センターでの取り組みの紹介をしていくことに努める。
3			